潤水都市 さがみはら

さがみはら
幼保小の架け橋プログラム・カリキュラム作成ガイド

相模原市マスコットキャラクター「さがみん」

相模原市　保育課・学校教育課

目　次

潤水都市 さがみはら

1　はじめに

2　幼保小の架け橋プログラムとは

3　連携のための体制をつくりましょう

4　架け橋期のカリキュラムを作成しましょう

・園と学校で話し合いましょう
～架け橋期のカリキュラム作成シートを使って～

・架け橋期のカリキュラムとして、取組を可視化しましょう
～話し合ったことや具体的な取組をカリキュラムにまとめましょう～

【参考】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

【引用・参考資料一覧】

【架け橋期のカリキュラム作成シート・架け橋期のカリキュラム枠】

【相模原市幼保小連携ステップ表】

１　はじめに

１　はじめに

義務教育開始前後の５歳児から小学校１年生の２年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期であり、「架け橋期」とよばれています。

市内でも、子ども同士の交流、保育参観、授業参観、参観後の協議、互いの教育・保育に関する研修、連携のための会議体の設置等、各地区でそれぞれの工夫があり、連携園の先生方の顔が互いに見える関係が広がってきています。

今回、「幼保小の架け橋プログラム」及び「幼保小の架け橋期のカリキュラム」のガイドを作成しました。

子どもたちの成長は、０歳から１８歳まで切れ目なく続いています。それぞれ校種間の違いはありますが、子どもたちの健やかな成長を願う気持ちは、すべての教職員の願いです。

本資料が、子どもたちの健やかな成長を願い、校種、施設類型、立場を越えて、互いを尊重しながらすすめる、「幼保小の架け橋プログラム」及び「幼保小の架け橋期のカリキュラム」作成の一助となれば幸いです。

２　幼保小の架け橋プログラムとは

２　幼保小の架け橋プログラムとは

・義務教育開始前後の５歳児から小学校１年生の２年間は、
生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期
・・・「架け橋期」

・この時期の教育については、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校（幼保小）という多様な施設がそれぞれの役割を担っています。子供の成長を切れ目なく支える観点からは、幼保小の円滑な接続をより一層意識し、乳児や幼児それぞれの特性など発達の段階を踏まえ、一人一人の多様性や０～１８歳の学びの連続性に配慮しつつ、教育の内容や方法を工夫することが重要です。

・「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場の違いを越えて、自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すものです。

「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」　文部科学省より

実施にあたり関係者で共有し大切にしていきたい視点

実質的な話し合いや実践を重視

・幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります。

・設置類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう。

・全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切にし、接続に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう。

・形式的な取組とならないよう、家庭や地域も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿を起点に話し合いを深めましょう。

目指す方向性

〇架け橋期のカリキュラムについては、幼保小が協働し、共通の視点を持って、教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるよう工夫しましょう。そして、幼保小の先生が一緒に振り返って評価し、改善・発展させていきましょう。

〇取組全体を通じて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、園長・校長のリーダーシップと自治体の支援の下、園と小学校の先生が、子供の育ちを中心に据えた対話を通して相互理解・実践を深めていきましょう。

進め方のイメージ

注：基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目安。実際には、地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら発展していく。

		1年目		2年目	3年目
		フェーズ1 基盤づくり	フェーズ2 検討・開発	フェーズ3 実施・検証	フェーズ4 改善・発展サイクルの定着
架け橋期のカリキュラム	方針 開発会議	○架け橋期のカリキュラム開発会議における準備 ・構成員の選定と目指す方向性の共有 ・地域の実態の把握 （開発会議は自治体に設置）	○架け橋期のカリキュラム開発会議における検討・開発 ・方針の検討・決定、開発への支援 ・国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携開始（モデル地域対象）	○架け橋期のカリキュラム開発会議による実施の検証 ・実施状況の把握・検証と支援 ・国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携推進（モデル地域対象）	○持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム開発会議の運営 ・方針の改善・発展と支援 ・国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携強化（モデル地域対象）
実施に必要なこと	具体化 園・小学校	○接続を見通し、各園・小学校で教育課程編成・指導計画作成 ・園・小学校での活動の共有 ・子供の交流	○架け橋期のカリキュラムの検討・開発 ・共通の視点をもとに内容の検討・開発 ・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の共通性の理解 ・子供の交流の推進	○架け橋期のカリキュラムの実施・検証 ・園・小学校において教育課程編成・指導計画作成、実施・検証 ・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用 ・子供の交流の充実(子供の自発的な交流等)	○持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム ・持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム ・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用の充実 ・持続的・発展的な子供の交流実施（子供の自発的な交流等）
		○各園・小学校での体制 ・連携窓口の明確化 ・自園・自校の先生への意識啓発と参画	○幼保小間の体制 ・幼保小の合同会議の設置 ・相互の教育の内容や方法に関する理解の共有	○幼保小の協働実施の体制 ・幼保小の合同会議の充実 ・相互の教育の内容や方法に関する理解の深化	○持続可能な体制 ・幼保小の合同会議の定着 ・相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・発展
	支援 自治体	○連携強化への支援 ・研修の実施（幼保小合同研修等） ・自治体内の関係部局との連携	○接続に向けた支援 ・研修の推進、研修教材の開発 ・関係機関との連携を深め、園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネート	○幼保小の協働実施の支援 ・研修の充実、研修教材の活用 ・実施上のニーズの把握と支援 ・園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの充実	○持続的・発展的な取組を支える支援の定着 ・研修の改善・発展、研修教材の改善・発展 ・必要な支援策の改善・発展 ・園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの改善・発展

「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」　文部科学省より

市内の連携例

～　実際に市内で行われている幼保小連携の一例です　～

【保育参観や授業参観】
子どもの様子や学びを理解
【その後の協議】
→参観だけでは見えなかった教育・保育の意図や、単元、内容のつながりを知る
※保育参観は、小学校の夏休み期間を利用して行っている地区も

【合同研修の開催】
・講師や指導主事の講義を聞き、その後、協議
・校内研究に園の先生を招待し、一緒に授業づくりについて考える

【ねらいをもった子ども同士の交流】
園のねらいは？学校のねらいは？
→互いのねらいを意識することにより、より互恵性のある交流へ
→交流時の先生の関わりが変化
→年間計画にどう位置付ける？
→振り返りを行い、教育・保育、次回の交流に生かす

【連携のための会議】
園長、校長、幼保小連携担当、年長担任、１年担任等で年に３回実施
→年間の交流の予定や、カリキュラム作成の協議
→具体の子どもの姿を写真やスライドで紹介。主体的な学びについて今の園や学校での学びを伝え合う。

３　連携のための体制をつくりましょう

連携のための体制をつくりましょう

園と学校で連携のための体制をつくり、幼保小の合同会議を設置しましょう。

【メンバーの例】

園長、校長、幼保小連携担当、年長担任、１年担任等

持続可能な幼保小連携のためには、担当者だけでなく、組織的な体制が必要です。

【内容の例】

・授業参観や保育参観、協議
・協議→架け橋期のカリキュラムの作成、見直し
・年間の連携の予定
・交流のねらいの確認や振り返り
・職員の合同研修

※市で開催している「幼保小連携研修」や交流前後の打ち合わせの機会、保育参観や授業参観の前後の機会を利用することも考えられます。

（P.8の市内の連携の例も参考にしてください。）

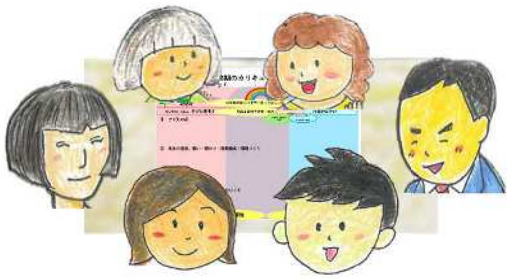
※市では、子どもたちの健やかな学びのために幼保小連携を推進することを目的とし、校長会の代表、副校長会の代表、各公立・私立の幼稚園・保育所・認定こども園園長の代表、行政職員で構成された「幼保小連携推進協議会」を開催しています。

4　架け橋期のカリキュラムを作成しましょう

共通のテーマを設定し、互いの教育・保育について、協議し、架け橋期のカリキュラムを作成しましょう。

実質的な話し合いや実践を重視
具体的な取組を可視化し、関係者で共有するという視点で作成することが大切です。

園と学校で話し合いましょう
～架け橋期のカリキュラム作成シートを使って～



準備物：付箋（２色）
カラーペン
カリキュラム作成シート
※グループに１枚ずつ　Ａ３に拡大するとよいです。

共通のテーマを設定し、
・実際の子どもの姿
・園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元
・先生の意図や願い、関わり、環境の構成、環境づくり等
・今後園や学校の教育・保育で大切にしていきたいこと
について、協議しましょう。

共通のテーマ（例）

※テーマの例です。園や学校の実態に応じて必要なテーマをご設定ください。

①めざす子ども像～架け橋期を通じてどのような子どもを育てたいか～

②「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と各教科等の学び
～10の姿から選択して視点を決めて話し合うのもよいですね～

③子どもの交流
～交流を通した学びを深めるため、各園・学校の年間の活動に子ども同士の交流をどのように位置付けていくか～

④家庭や地域との連携

⑤主体性とは

⑥子どもの困り感　など

共通のテーマを設定し、互いの教育・保育の

・遊びや学びのプロセス
・園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等
・指導上の配慮事項　先生の関わり、環境の構成・環境づくり等

について、協議しましょう。

設置類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的・深い学びの実現に向けて協働して取り組みましょう。

【　学校名　　園名　　】

架け橋期のカリキュラム作成シート

テーマ「　　」

相模原市が目指す幼児教育・保育
自らの夢をふくらませ、
夢に向かって挑戦する子ども
「相模原市幼児教育・保育ガイドライン」

相模原市の教育が目指す人間像
共に認め合い　現在と未来を創る人
「第２次 相模原市教育振興計画」

幼児期　　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿　　児童期

遊びを通して学ぶ　学びの芽生え　　育成を目指す資質・能力　　自覚的な学び

学びに向かう力・人間性等
知識及び技能の基礎
思考力・判断力・表現力等の基礎

①　子どもの姿

②　先生の意図、願い・関わり・環境構成・環境づくり

③　今後園や学校で大切にしていきたいこと

多様性　　安心感

進め方シート　【　学校名〇〇小学校・園名　〇〇幼稚園・〇〇こども園・〇〇保育園　】

架け橋期のカリキュラム作成シート

テーマ「　〇〇〇〇　」

相模原市が目指す幼児教育・保育

相模原市の教育が目指す人間像

【協議の進め方（例）】※付箋にはキーワードを短く書くことをおすすめします！
その後の協議で詳しく語りましょう。

① 園や学校で見られた「テーマに沿った子どもの姿」について、各自付箋に書く。
（園：ピンク　学校：青）　※キーワードを短く一言で書くことをおすすめします。

② 付箋を貼りながら、そのエピソードについて語る。（園：左側　学校　右側に貼る。）

③ ①で紹介した「子どもの姿や行動」は、園や学校の先生のどのような意図や願い・関わり・環境構成・環境づくりから生まれたのか、各自付箋に書く。

④ 付箋を貼りながら、各園や学校の先生の意図や願い・関わり・環境構成・環境づくりのエピソードについて語る。

⑤ 貼られた付箋や、協議を振り返り、今後園や学校で大切にしていきたいことや改善していきたいことについて語り合い、中心部分（紫色の部分）にキーワードでまとめる。

※協議の途中で、思いついたキーワードを付箋で追加したり、直接カラーペンなどで、考えやキーワードをシートに書き込んだり、意見同士をつないだりしても構いません。

～　各地区の実態に応じて作成したカリキュラムは、持ち帰り、明日以降の教育・保育に生かしましょう　～
～　次回は、別のテーマで話し合ってみるのもよいですね。　～

相模原市内の園と学校の協議によって生まれたキーワード

～カリキュラム作成シートから生まれた「園や学校で大切にしていきたいこと」～

安心感
受け止める
子どもの思いを聞く
信じる
見守る
ほめる
認める
困っている子への言葉かけ
達成感
共感
楽しみ！
自ら選択 自ら決定
気付きを大切に
子どもの声・思い・表情
「やりたい」を大切に
試行錯誤
問題解決
自分で考え話し合う時間の確保
環境 人・もの・こと
0歳からの積み重ね
できたことを伸ばしていく
なぜ？どうして？
過程を大切に
保護者をサポート
交流の機会
自分の意見も言える 相手の話も聞ける
共有の機会 子どもの様子 支援の仕方・学習内容
保育参観 授業参観 行事の参観
3月の園児の姿を参観

カリキュラム作成シート（P.14）　を使用して協議した市内の先生方から生まれた「今後園や学校で大切にしていきたいこと」のキーワードです。ほんの一部をご紹介します。

実質的な話し合いや実践を重視、
具体的な取組を可視化し、関係者で共有するという視点で作成

架け橋期のカリキュラムとして、取組を可視化しましょう

～話し合ったことや具体的な取組を可視化しましょう～

互いの教育・保育の
・園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等
・遊びや学びのプロセス
・指導上の配慮事項　先生の関わり、環境の構成・環境づくり等
について、協議したこと、園や学校の教育・保育で行っていること、
計画していることをまとめましょう。

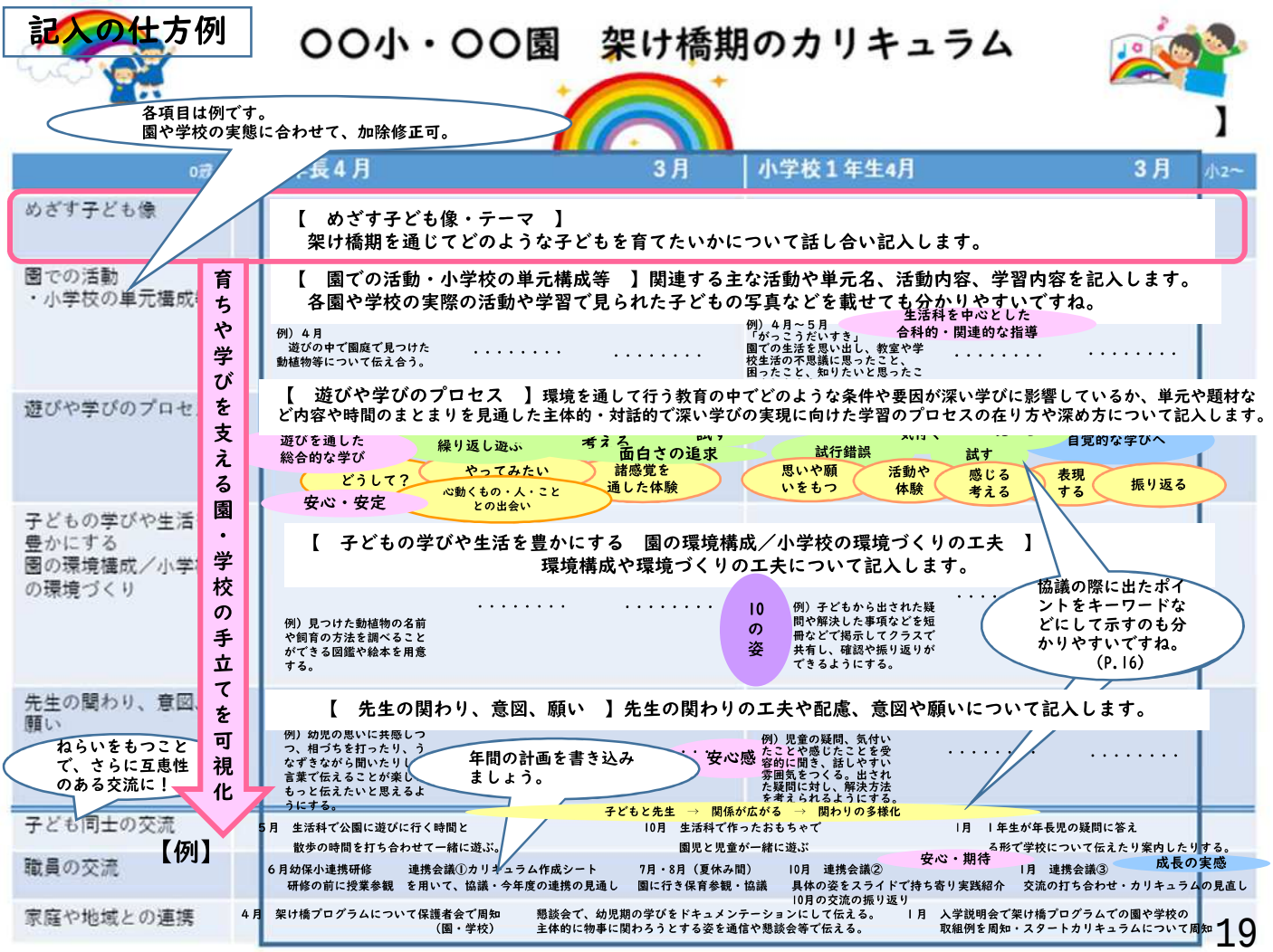
※カリキュラムの枠や項目を参考にお示しします。
園や学校で作成している枠、項目をお使いいただいたり、このシートをカスタマイズしてご使用いただいても構いません。

【話し合いや作成を通して…】
・幼児期の教育と小学校教育の共通性や発展性が見えてきましたか？
・互いの教育・保育の指導・援助の参考になることはありましたか？
・幼児期の体験を小学校に生かしていますか？　幼児期の学びとのつながりは？
・次年度は、このカリキュラムを見直し、改善していきましょう。→持続的・発展的な連携へ
作成したカリキュラムに日々の気付きを書き加えていく等、日常的にシートを活用することも考えられます。

○○小・○○園　架け橋期のカリキュラム

【学校名・園名　　】

0歳～	年長４月	３月	小学校１年生4月	３月	小2～
めざす子ども像					
園での活動 ・小学校の単元構成等					
遊びや学びのプロセス					
子どもの学びや生活を豊かにする 園の環境構成／小学校の環境づくり					
先生の関わり、意図、願い					
子ども同士の交流					
職員の交流					
家庭や地域との連携					



【参考】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

（１）健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

（２）自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

（３）協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

（４）道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

（５）社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

【参考】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

（６）思考力の芽生え
　身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

（７）自然との関わり・生命尊重
　自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

（８）数量・図形，標識や文字などへの関心・感覚
　遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

（９）言葉による伝え合い
　先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

（10）豊かな感性と表現
　心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

【引用・参考資料】

○文部科学省
「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」（2022）
https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_3.pdf

「幼保小の架け橋プログラム実施に向けての手引きの参考資料（初版）」（2022）
https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_4.pdf

【動画もご参考に】

○「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）について【はじめに】」
https://www.youtube.com/watch?v=5QPEICqZTjM
○「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）について【その１】」
https://www.youtube.com/watch?v=9AmTmM85rTo
○「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）について【その２】」
https://www.youtube.com/watch?v=nOYIH6D8beQ
○「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）について【その３】」
https://www.youtube.com/watch?v=Y3kLgTyXwKE
○「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）について【その４】」
https://www.youtube.com/watch?v=Ha8yJIkLQkE
○「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）について【その５】」
https://www.youtube.com/watch?v=3KTIZSFuATc

市で発行している幼保小連携通信では、「幼保小の架け橋プログラム」の取組、「架け橋期のカリキュラムの作成」についての取組等ご紹介しています。市内各地区の工夫をぜひ参考にしてください。
バックナンバーも相模原市のHPに掲載中です。

相模原市　幼保小　で検索！

【　学校名　　園名　　】

架け橋期のカリキュラム作成シート

テーマ「　　」

相模原市が目指す幼児教育・保育
自らの夢をふくらませ、
夢に向かって挑戦する子ども
「相模原市幼児教育・保育ガイドライン」

相模原市の教育が目指す人間像
共に認め合い　現在と未来を創る人
「第２次 相模原市教育振興計画」

幼児期	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	児童期
遊びを通して学ぶ　学びの芽生え	育成を目指す資質・能力	自覚的な学び

学びに向かう力・人間性等

知識及び技能の基礎

思考力・判断力・表現力等の基礎

① 子どもの姿

② 先生の意図、願い・関わり・環境構成・環境づくり

③ 今後園や学校で大切にしていきたいこと

多様性　　安心感

○○小・○○園　架け橋期のカリキュラム

【学校名・園名　　】

0歳～	年長４月　　３月	小学校１年生4月　　３月	小2～
めざす子ども像			
園での活動 ・小学校の単元構成等			
遊びや学びのプロセス			
子どもの学びや生活を豊かにする 園の環境構成／小学校の環境づくり			
先生の関わり、意図、願い			
子ども同士の交流			
職員の交流			
家庭や地域との連携			

相模原市幼保小連携ステップ表

＊太字は、文科省「架け橋プログラム」の内容を取り入れ、令和５年度から新しく追加された内容・例

	連携の視点	園・学校における取組内容	取組内容の具体例	オンラインを活用した幼保小連携の例
第1ステップ	互いを知る はじめの一歩	近隣の幼保小の場所の確認	・年度はじめに場所を確認し、校長・園長、連携担当者等が挨拶をする。 ・散歩や学区探検の際、学校や園に立ち寄ったり近くを通ったりする。 **・園内、校内の業務分担に連携担当者を位置づける。**	
		園だより・学校だより等の交換	・便り等を直接またはメール等で届け、園・学校の様子を理解する。 ・交換した便りを掲示するコーナーを設置する。	
		公開保育・学校へ行こう週間の周知	・行事予定表の交換や公開について周知文書の送付などを行う。	
第2ステップ	互いの顔が分かる 交流段階	保育参観・授業参観、研究発表会などへの参加	・多くの職員が参加できる体制を整え、参観する。 **（例）** **⇒公開保育期間・学校へ行こう週間・授業参観等の機会と併せて、職員の参観を実施する。**	・オンライン等による交流 ・オンライン等を活用した事前打ち合わせ ・活動についての通信等の交流
		子ども同士の交流活動に 向けての打ち合わせと交流の実施	・事前に打ち合わせを行い、交流活動のねらいや内容等を共有する。 ・学校の休み時間を活用して一緒に遊ぶ。 ・生活科等を活用して交流をする。 ・総合的な学習の時間等を活用して交流をする。 ・園の行事等に児童を招待するなどの交流をする。	
第3ステップ	互いの保育・教育を理解する 連携段階	子ども同士の交流活動後の意見交換	・活動のねらい・内容等についての振り返りや園児や児童の様子など、職員同士で意見を交換する。	・オンライン等による意見交流 ・職員研修へのオンライン参加 ・幼保小連携研修講座の活用
		保育参観・授業参観後の意見交換	・参観後に気付きや疑問・感想などを伝える。 ・幼児教育と学校教育の接続の観点や園児・児童の活動の様子など、職員同士が疑問や意見を交換する。	
		幼保小連携に関する研修会への参加	・県や市で実施する連携関連の研修会等に参加する。 ・研修内容を園・校内で共有する。	
		園内・校内での職員研修の実施	・園と学校が合同で、連携に関する研修会等を実施する。 **・全職員が参加する園内研修・校内研修等に連携担当者が訪問し、園や学校の視点をもとに協議に参加する。** ・園の研修、学校の研修に連携校・連携園の職員が参加する。 ・小学校の教員体験、園の保育体験等を実施する。	
第4ステップ	互いのつながりを意識し、保育・教育に生かす接続段階	連携のための組織の設置	・園長・学校長、幼保小連携担当者等が集まる**「合同会議」を設定し、**今後の連携の在り方や学びの連続性について協議を行う。 **（例）** **⇒合同会議の内容（架け橋期のカリキュラム作成、幼保小合同研修、子どもの交流活動など）を決定する。** **⇒合同会議で、幼保小の相互理解を深める研修内容や具体的な方法について話し合う。（幼保小連携研修の機会を生かすことも考えられる）**	・オンライン会議 ・データ交換・交流
		架け橋期のカリキュラムの作成・実施・検証	・各園や各学校において、**架け橋期のカリキュラム作成担当者を中心としたカリキュラム作成の組織等を立ち上げる。** **（例）** **⇒園・学校合同の架け橋期のカリキュラム作成会議を設定する。** ・園・学校で**の子どもの生活の流れや活動・教材としての環境の活用について共有した上で、各園・各小学校で**教育課程編成・指導計画作成を行う。 **（例）** **⇒幼保小の先生が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし育成を目指す資質・能力を視野に入れながら架け橋期のカリキュラムを策定する。** ・**架け橋期の**カリキュラムを職員で共有し、協力体制のもと実施・**検証・改善する。** **（例）** **⇒カリキュラムや幼保小共通の視点が実践に生かされているか、園や小学校において相互理解を深める。** **⇒幼保小の職員で相互の教育の見方や子どもの捉え方の変容等について意見交換する。** **⇒架け橋期のカリキュラムを固定的に考えすぎず、子どものウェルビーイングを高める視点から見直しをしていく。**	

園や小学校での活動のねらいや生活の流れを共有し、子どもの交流を行う。

＊取組内容は、あくまでも参考事例です。各園・学校・地域の実態に応じた互恵性のある取組を行い、相互理解を図ることが大切です。

令和6年3月発行